

# はぐくみ

平成 27 年 11 月 2 日発行 No.73

## 「確かな学力」向上にむけて！

## 「学力向上フォーラム 2015」の開催

平成 27 年度の「学力向上フォーラム 2015」が、9 月 29 日（中学校）・10 月 1 日（小学校）の両日、総合教育センターにおいて開催されました。峡東教育事務所からは、授業改善プラン実践事業推進校の山梨北中学校、春日居中学校、塩山南小学校、石和南小学校の 4 校と、先進的な取組を進めている塩山中学校の合わせて 5 校が事業内容、研究内容についてポスターセッションによる発表を行いました。ポスターセッション終了後パネルディスカッションも行われ、全国学力・学習状況調査、学力向上に向けての取組等について意見交換がありました。その中で出された主な意見等を紹介します。



- 質問紙から、山梨県の子どもたちは、「難しいことでも挑戦してやろう」というやる気に満ちた子どもたちである。
- 自分の考えを他者に伝えたりすることを難しいと思っている。
- 考えを説明したりする経験が少ないのではないか。そういった経験をしていないので、子どもたちは、そう感じてしまうのではないか。
- 学力向上には、生活習慣の改善、学習習慣の改善が大切で、教育事務所としても、学校・家庭が連携して取り組むことができるようにしている。
- 学校でも、家庭学習の取組を家庭と連携して進めている。例として、学習（授業で）したキーワードを中心に家庭でまとめる訓練をしている。
- 学力向上に向け、各教科（中学校）でベクトルを同じにして、学校で全教職員が一枚岩となって取り組んでいる。
- 言語活動を充実させていくことが大切である。問題解決的な学習過程に言語活動をしっかりと位置付けていくことが重要である。
- 学級集団づくり、学習集団づくりを学校、市が組織的に取り組んでいる。
- 集団づくりの中で、子どもたちが PDCA サイクルをできるようにしていくことが重要である。
- 小中の先生が、互いの学校の学習内容・学習の進め方等を理解することが大切である。
- 小学校、中学校が連携して取り組むことが重要である。

2 日間の「学力向上フォーラム 2015」では、確認できた一つとして、『学校と家庭』『学校内の教職員』『小学校と中学校』のそれぞれの『連携』の重要性がありました。学校内には、様々な役職や分掌があり、その協働的な作業や営みによって、子どもたちの健やかな成長や発達が保障されていきます。管理職、教務、学級担任等、子どもたちとのかかわり方に違いはあっても、学校教育目標の具現化という願いや思いは同じです。

学力の向上においても、校内の分掌や担当教科によって、直接的、間接的な違いはあっても、一部の教師や担当に、負担や責任が偏ってよいものではありません。

「確かな学力の定着・向上」を中長期のビジョンで捉えれば、全教職員が主体的に、また、**学校がチーム**として、「学力向上」に取り組んでいくことが不可欠です。

県教育委員会では、学力向上をめざしての今年度の重点項目の 1 つに「**学校の組織的対応の定着**」を挙

げています。各学校の課題に応じた創意と工夫ある取組をお願いします。

## ◆◇学力向上に向け、組織的・体系的に取組を！◆◇

9月28日より、第2回ふれあい学校訪問をさせていただいております。日程調整がつく学校については、義務教育課の小林知子指導主事が帯同しております。訪問した全ての学校に於いて、学校長のリーダーシップのもと、学力向上に向けての組織的な対応をうかがうことができます。

各校で、分析をもとに課題に対する具体的な手立て（対策）を進めていただいております。指導内容を全教職員で共有し、学校全体で組織的・体系的に、取組を進めることが重要です。下に示した「学力

の定着に関する系統図」は、全学年を通じ系統的学習内容を整理できるものです。ふれあい訪問時にも、紹介させていただきましたが、今後の学力向上の取組に活かしていただきたいと思います。

◆学力の定着に関する系統図【数 学】

校種	学年	学力の状況（国・県の学力調査から）	学校の状況（課題等）	改善に向けて
中学校	3	A 2 (2) 数量の関係を文字式に表すこと 〔1年〕 B 1 (3) 事象を式の意味に即して解釈し、その結果について、数学的な表現を用いて説明すること 〔1年〕	(例) 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。本問題では、具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例の関係を見だし表現することに課題がある。  各学校においては、以下のような観点から状況（課題）を整理してください。 ①正答率に関係なく、全ての生徒に基礎的・基本的な内容の習得として必要なもの ②正答率が低い問題に焦点化し、全体的な	(例) 事象を数学的に考察する場面を取り入れ、図や表などで与えられた情報から目的に応じて必要な情報を選択し、的確に処理することができるように指導する。
	2	2 (2) 式で表された数量の関係を、事象に照らして読み取ること 〔1年〕 9 (2) 日常的な事象を理想化・単純化して、その特徴を的確に捉えられるようにし、数学的な表現を用いて説明すること 〔1年〕	◆学力の定着に関する系統図【国 語】	

◆学力の定着に関する系統図【国 語】

校種	学年	学力の状況（国・県の学力調査から）	学校の状況（課題等）	改善に向けて
小学校	6	A 5 二 目的に応じて、適切に引用すること 〔5・6年〕 B 2 三 文章と図表とを関係付けて自分の考えを書くこと 〔5・6年〕	(例) 「引用」について、かぎ（「」）で括弧することは捉えているが、引用の必要性や効果を考えたり、目的意識をもって引用したりすることに課題がある。	(例) 本の紹介や意見文を書く学習などにおいて、文章をただ引用するのではなく、児童が自分の思いや考えを書く上で「説得力を高める」「具体例を挙げて読み手を納得させる」といった目的意識をもって引用するように指導する。
	5	4 修飾と被修飾の関係を捉えること 〔3・4年〕 8 三 話し合いの大事な点に注目して意見を聞くこと 〔3・4年〕	各学校においては、以下のような観点から状況（課題）を整理してください。 ①正答率に関係なく、全ての生徒に基礎的・基本的な内容の習得として必要なもの ②正答率が低い問題に焦点化し、全体的なレベルアップを図るもの ③国や県の平均正答率と比較して、差があるものや課題が感じられるもの	左に挙げた各学校の課題改善に向けた3月までの取組や対策について記述してください。
	3	9 一 文の続き方に注意して、順序立てて書くこと 〔1・2年〕 1 0 一 場面や人物の設定を正確に読み取ること 〔1・2年〕		

## ◇◆指導主事学校訪問要請◆◇

月・日	学校名	形態	教科
11月4日	八幡小	研究授業	算数
11月4日	勝沼中	研究授業	英語
11月6日	塩山南小	授業改善P	国語 3
11月6日	塩山南小	授業改善P	社会
11月6日	富士見小	研究授業	国語
11月9日	笛川中	研究授業	数学
11月9日	奥野田小	研究授業	算数
11月9日	祝小	研究授業	算数
11月9日	一宮西小	研究授業	算数
11月10日	御坂西小	研究授業	体育
11月11日	石和南小	研究授業	算数
11月11日	石和北小	研究授業	道徳
11月11日	春日居小	研究授業	国語
11月13日	大藤小	研究授業	国語
11月13日	一宮北小	研究授業	算数

月・日	学校名	形態	教科
11月16日	石和東小	研究授業	算数
11月16日	山梨南中	道徳推進	道徳 3
11月18日	東雲小	研究授業	算数
11月18日	塩山北中	研究授業	数学
11月19日	一宮中	研究授業	理科
11月25日	石和南小	授業改善P	理科
11月26日	山梨北中	授業改善P	英語
11月26日	山梨北中	授業改善P	数学
11月26日	山梨北中	授業改善P	理科
11月27日	山梨小	研究授業	国語
11月27日	富士見小	研究授業	国語
11月27日	一宮南小	研究授業	道徳
11月27日	御坂中	研究授業	理科
11月27日	菱山小	研究授業	算数

<12月の指導主事学校訪問要請について（お願い）>

12月分の指導主事学校訪問要請提出は、11月10日（火）が締め切りとなります。ご注意ください。